

Study Plan2 リサーチとは

大使となったみなさんは、これから会議までの間に会議に向けた準備をすることになると思います。その準備を模擬国連では「リサーチ」と呼びます。そこで今回は、リサーチを進める上での前提や、そもそもリサーチとは何なのか、何を目的とすればよいのかということの説明したいと思います。

1. リサーチの前提

まず、リサーチを進めていく上で常に意識してほしいことを2点説明します。

1.1. リサーチは無限

私たちが入手できる地雷や担当国に対する情報の量は底なしです。例えば「地雷」や担当国の国名を検索しただけでも膨大な件数が検索されると思います。それらのすべてを調べることは不可能です。なぜならば、みなさんがリサーチにかけることのできる時間は限られているからです。従って、無限ともいえる情報を取捨選択することが、リサーチには必要です。

1.2. 目的意識を持つ

リサーチをするときには、情報を選ぶ必要があることを前の項で述べました。情報を選ぶには、基準となる目的が必要です。例えば、英語の参考書を選ぶときには、必要とするレベルや中身(単語帳なのか長文読解なのかなど)を明確にしないと、自分にあった参考書を選ぶことはできません。

同じように、リサーチをするときも自分の知りたい情報を明確にした上で、情報源に当たる必要があります。何を目的として、その書籍やサイトに当たるのかということ意識して、情報の洪水に飲み込まれないようにしましょう。

2. リサーチの目的

「担当国の理想と現実のギャップを認識し、ギャップを埋める方法とその理由を明確にすること」、これがリサーチの目的です。

「担当国の理想」とは、議題について担当国が最も望む状況です。国の立場によって、同じ議題であっても望む状況は異なります。例えば、地雷の被害を受けている国と、地雷が国を守るために必要な国では、理想とする状況は大きく異なるでしょう。

「担当国の現実」とは、現在担当国が置かれている状況のことです。被害国であれば被害状況、地雷を必要としている国ならば、現在の地雷保有数や地雷規制の国際的動向などが挙げられるかと思います。

以上の2ステップで、担当国の理想と現実が明らかになります。すると、理想と現実のギャップが明らかになると思います。このギャップを埋めるための方法(政策)を実現するために、会議では行動します。ギャップを埋めるための方法を実現するには、方法とその方法を行なう理由を明確にすることが必要です。方法とその方法を行なう理由を明確にすることができれば、ひとまずリサーチは完了したといえます。



3. リサーチの5段階

リサーチには大きく以下の5つのステップがあります。以下に挙げた方法がすべてではありません。必ず上から順番にやっていく必要もありません。あくまでも一例として考えていただければと思います。

3.1. 国を知る¹

国に関する情報としては、場所や人口、宗教といった基礎的な情報や、条約の批准状況、地雷の製造状況や被害状況などの議題に関する情報が挙げられます。

3.2. 議題を知る²

議題を知ることは、まず議題概説書を読むことから始まります。議題概説書を読む中で、

¹ 国を知るためのリサーチの方法については、3回目のスタディプランで説明します

² 議題を知るためのリサーチの方法については、4回目のスタディプランで説明します

分かりづらいところや、担当国に利害があってより深く調べたい時が出てくると思います。その時には、議題概説書の巻末にある参考文献リストなどを参照してみるとよいでしょう。

また、議題に対する過去の国連における話し合いを調べることも重要です³。国連の会議は基本的に1度だけではなく、過去の話し合いを踏まえて継続的に審議が行なわれます。従って過去の議論でどこまで話し合いがなされて決定したのかを知ることで、議題に対する国連の取り組みの現実を知ることができます。

3.3. 政策立案⁴

担当国における理想と現実のギャップを埋めるための方法が政策立案です。最初は大まかなものしか思いつかないかもしれません。しかし、政策の理由を考えていくうちに徐々に具体的になることもあります。なので、まずは大枠だけでも考えて、理由付けを考えながら具体的にしていく形を意識して下さい。

3.4. 政策立案の理由付け

政策を考えたら、他国になぜその政策を行なうかを説明するための理由を考えます。しっかりとした政策の理由がないと他国を説得することができません。他国を説得することができなければ、その政策が載った決議は採択されません。採択されないと、その政策は実行に移されることはありません。

また、採択されるときも多くの国の賛成を得られれば、より政策の実効性が増します。他国を説得する際には、政策の必要性だけでなく、自国の政策が他国にとっても利益になることが明確にできればより望ましいです。

3.5. 他国を知る

余裕があれば他の国の状況も自国と同様に調べてもよいでしょう。しかし、時間的にすべての国を調べることは難しいです。なので、例えば自国の主張と真っ向から対立する国や、逆に自国と状況が似ていて協調できそうな国に絞って調べておくことが考えられます。

以上で今回のスタディプランは終了です。次回のスタディプランでは、国を知るためのリサーチの方法を説明します。

文責：JCGC

³ 国連文書の調べ方は、5回目のスタディプランで説明します

⁴ 政策立案については、6回目のスタディプランで説明します